

# 乙川リバーフロント地区公民連携まちづくり基本計画—QURUWA 戦略— 改訂概要

## 1 改訂の背景

本計画が改訂されてから5年経過し、QURUWA プロジェクトの進展や地域自治の活動の活性化などまちづくりの転換期である状況を踏まえ、改訂を行います。



## 2 乙川リバーフロント地区公民連携まちづくり基本計画—QURUWA戦略—とは

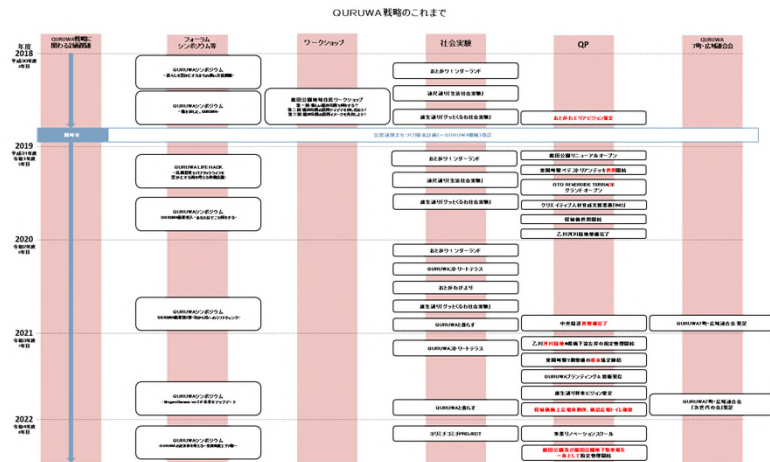
QURUWA地区内の豊富な公共空間を活用した公民連携プロジェクトを実施することにより、主要回遊動線「QURUWA」の回遊を実現させ、波及効果として、まちの活性化（暮らしの質の向上・エリアの価値向上）を図ります。



### 3 改訂の主なポイント

#### QURUWA戦略のこれまで

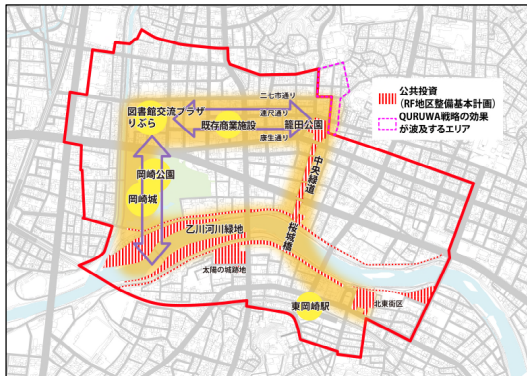
- ・ QURUWA 戦略に関わる年表を整理します。(別紙P1-2)



- ・ 平成30年度以降の出来事を追記しました。
- ・ QP (QURUWAプロジェクト) の進展と、自治会の連合会「QURUWA7町・広域連合会」の活動の活性化の状況を踏まえ、年表に反映しました。

#### 波及エリアの追加

- ・ 新たに本計画に基づく取組みに連動した「波及エリア」を定義し、亀井町を当該エリアとして設定します。(別紙P3)

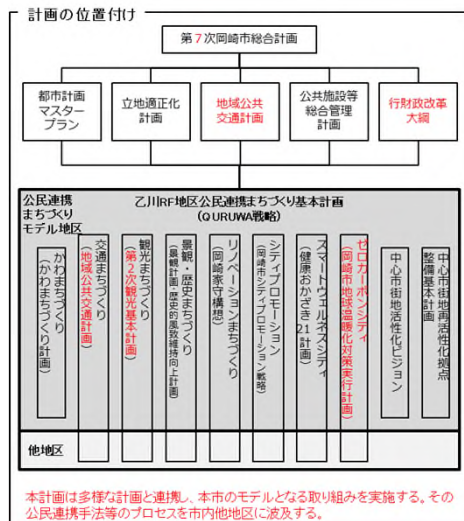


- ・ QURUWA地区に隣接する徒歩圏内において、地域や民間事業者が地域課題の解決等に取り組むエリアを波及エリアとして定義しました。
- ・ QURUWA 7 町・広域連合会のうち唯一地区内に入っていなかった亀井町を当該エリアとして設定します。

QURUWA地区・・・主要回遊動線QURUWAを覆う、約157haの乙川リバーフロント(※略称RF)整備の地区。  
波及エリア・・・QURUWA地区に隣接する徒歩圏内で地域や民間事業者が地域課題の解決等に取り組むエリア。

#### 何のために (Why) / 誰が (Who) × どうやって (How)

- ・ 本計画の目的及び計画の位置づけを整理します。(別紙P4-5)



#### QURUWA地区まちづくりの目的

これからの100年を暮らす「ウォーカブルなまち」  
-新しい住み方・働き方・遊び方を楽しむ-

QURUWA地区の公共投資を経営課題の解決につなげるとともに、公共サービスの受益最大化を図る公民連携まちづくり導入のモデルとする。そして、公民連携により市民・来街者に新たな交流・体験を通じた「良質な都市空間を楽しむ日常」と「暮らしやすいまち」として、くらし創発都市を実現し、その結果として観光産業都市を目指す。

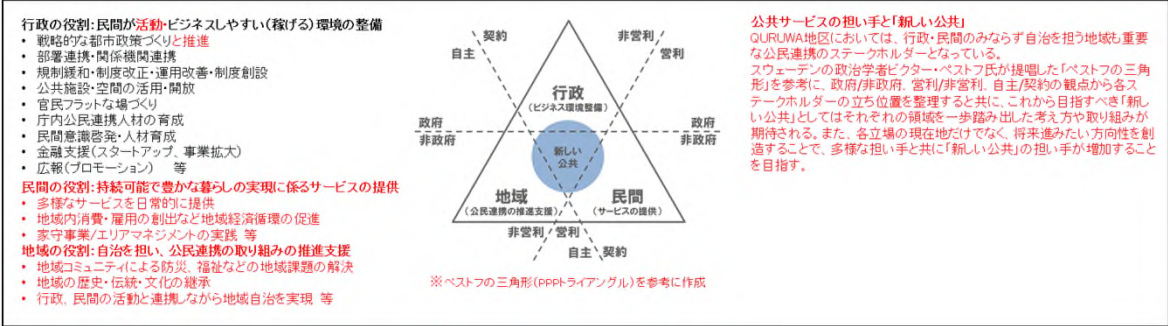
- ① 市民の暮らしの質の向上
  - ・ 歩いて楽しく、自転車でも回れて、車でも来やすいまち
  - ・ 多様な働き方・雇用の創出
  - ・ 地域の暮らしを豊かにする空間づくりとその活用
- ② 敷地単位ではなくエリアの価値向上
  - ・ 質の高い公共投資により質の高い民間投資を呼び込む
  - ・ 市内経済循環を生み出す都市型産業等の創出
  - ・ 官民が所有する低未利用な施設や空間を活用した持続可能なエリマネジメントの確立

- ・ 計画の位置づけ  
社会情勢の変化や関連計画の改定に基づき、本計画の位置付けを整理しました。
- ・ QURUWA地区のまちづくりの目的  
国土交通省が推進する「ウォーカブルなまちづくり」に取り組んでいるため、将来像に取り入れました。  
また、QURUWA戦略は暮らしの質の向上を目指すため、将来都市像として「くらし創発都市の実現」を明記しました。

※「創発」とは、個々の要素の単純な総和にとどまらず、意図を超えた新しい価値を生み出すという意味です。



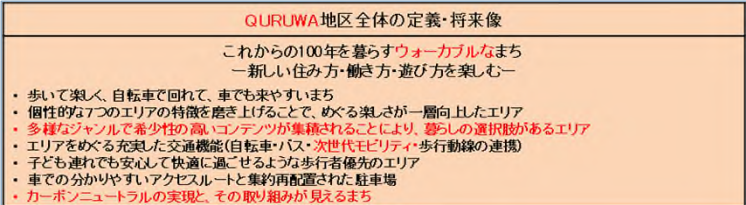
・ 公民連携まちづくりにおける、民間と地域の役割を整理します。(別紙P6-7)



- ・ 行政のみならず、民間、地域の役割も記載しました。
- ・ スウェーデンの政治学者ビクター・ペストフ氏が提唱した「ペストフの三角形」を参考に、地域、民間、行政それぞれが目指すべき「新しい公共」の担い手としての立ち位置を整理しました。

将来像や定義

・ QURUWA 地区全体や各エリア、拠点、拠点間動線の「定義」や「将来像」を更新します。(別紙P8-10)

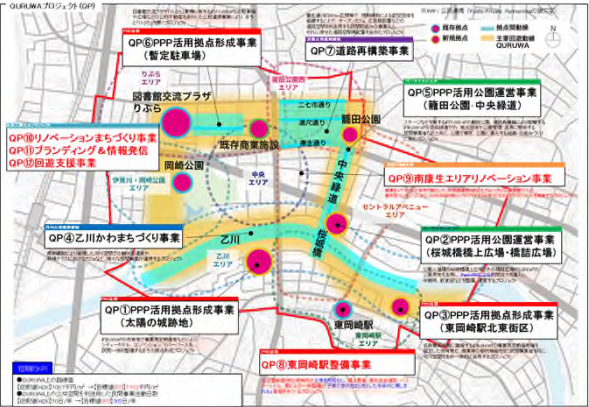


- ・ 当計画の進展や時代の変化に伴い、QURUWA地区全体の定義・将来像を見直します。
- ・ 2023年度時点で、整備に向けて動いている東岡崎駅エリアをはじめとしたエリアビジョンの更新を行いました。

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 東岡崎駅 | <p>多世代がつながる居場所と来街者に対するおもてなしの玄関口</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 市内外へのスムーズなアクセスとウォーカブルな暮らし</li><li>・ 駅周辺の自治会を中心とした暮らしを再生するコミュニティ</li><li>・ 駅と乙川、駅と六所神社をスムーズにつなぐ歩行者動線や滞在空間</li><li>・ 子育て世代を中心とした日中の過ごし方を充実させるローカルコンテンツの集積</li><li>・ 駅周辺の多様な働き方を支える住環境の充実</li><li>・ 観光客など来街者の玄関口としての優れた景観</li></ul> |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

新たな公民連携事業（QURUWA プロジェクト）の位置づけ

・ 新たな公民連携事業（QURUWA プロジェクト）として、下記5つのプロジェクトを計画に位置付けます。(別紙P11)



- 1 QP⑧東岡崎駅整備事業**  
名古屋鉄道(株)と岡崎市が土地を共同化し、橋上駅舎、南北自由通路、バスターミナル、駅ビルの一体整備と「子育て世代をはじめとした多世代に親しまれる」居場所をつくる事業です。
- 2 QP⑨南康生エリアリノベーション事業**  
南康生2丁目/3丁目を対象として、中央緑道を引き込むウォーカブルな空間づくりと都市型コンテンツにより、QURUWAの新しいライフスタイルをつくる エリアマネジメントを実施する事業です。
- 3 QP⑩リノベーションまちづくり事業**  
まちの潜在資源を活用して都市・地域の経営課題を解決を図る事業です。
- 4 QP⑪ブランディング & 情報発信**  
民間の投資や活動を誘導するため、QURUWAのブランディングと情報発信を行う事業です。
- 5 QP⑫回遊支援事業**  
QURUWA地区内でモビリティ等を活用して回遊促進を図る事業です。

想定スケジュールの更新

・ 当計画の進展や社会の変化に伴い、QURUWA プロジェクト等の想定スケジュールを更新します。(別紙P13-19)